



テーマ
子どもたちの **すこやかな体、やすらかな心を願い行動する**

プログラム・抄録集

会期 平成28年 **6月11日(土)・12日(日)**

会場 **米子コンベンションセンター(BiG SHiP)**

会頭 **笠木 正明** 鳥取県小児科医会会長

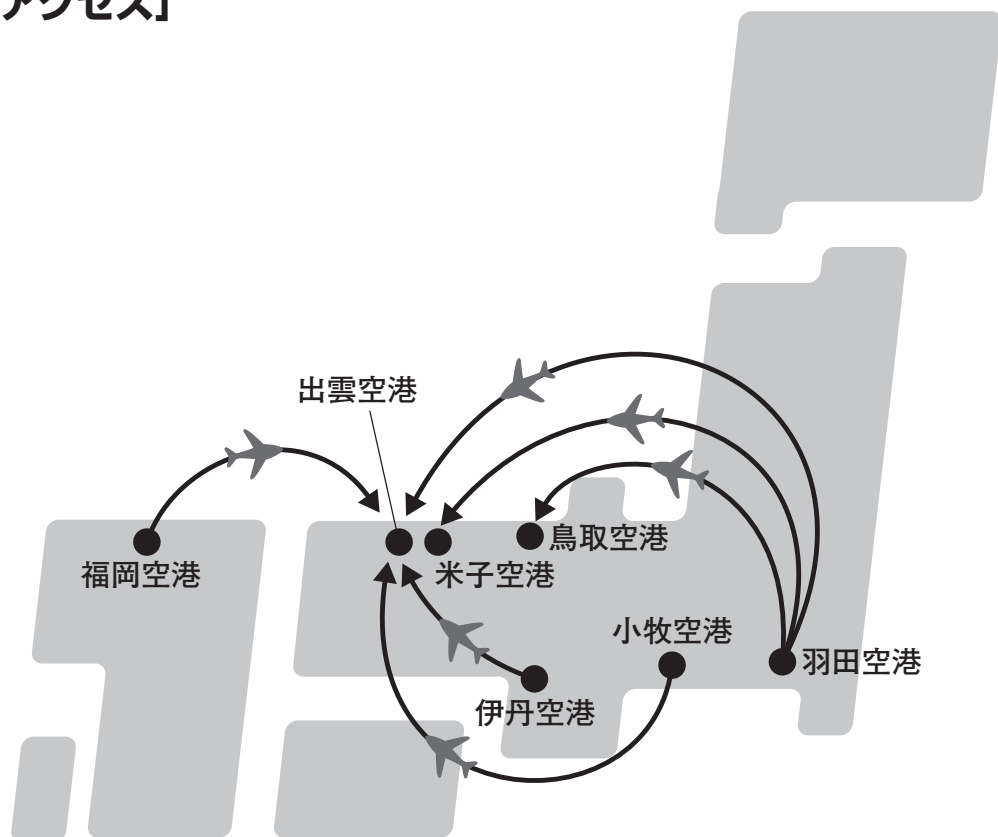
主催 鳥取県小児科医会

CONTENTS

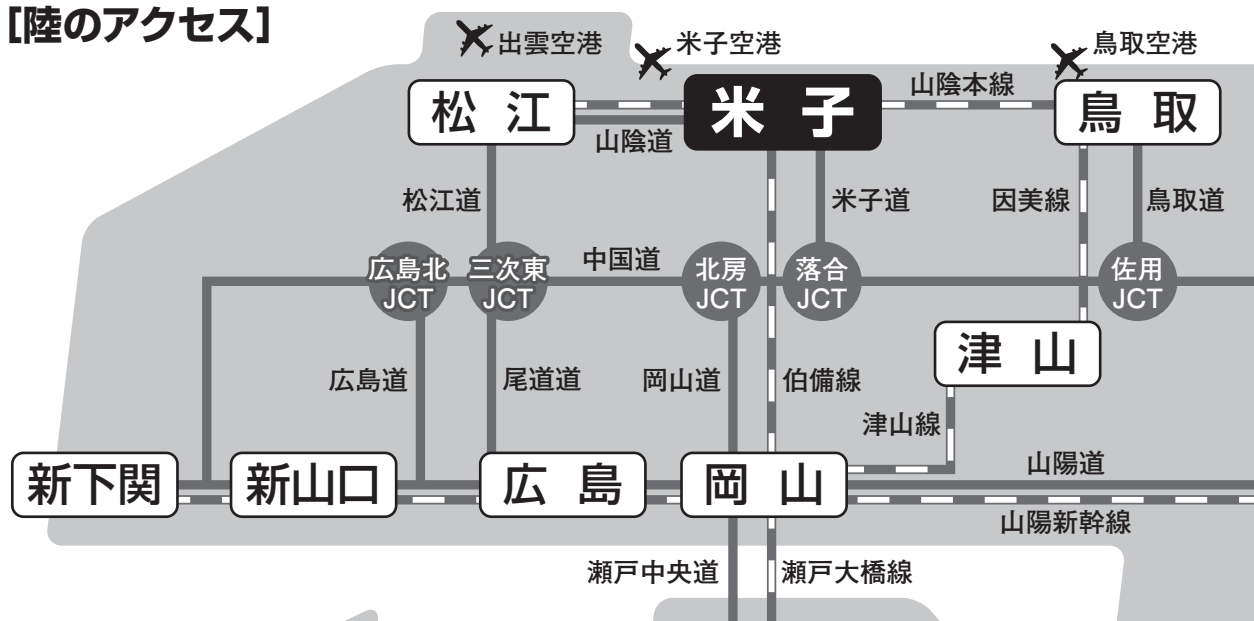
第27回日本小児科医会総会フォーラム in 米子 会頭挨拶	2
公益社団法人日本小児科医会 会長挨拶	3
会場へのご案内	4
フォーラム会場周辺のご案内	5
フォーラム会場のご案内	6
参加者へのご案内	7
座長・発表者へのご案内	9
日 程 表	12
プログラム	14
会期中の委員会等	23
抄 録	
会長講演	25
特別招待講演	29
特別企画	33
教育講演	41
シンポジウム1	51
シンポジウム2	61
シンポジウム3	71
シンポジウム4	79
シンポジウム5	87
市民公開講座	97
ポスターセッション	109
教育セミナー	123
モーニングセミナー	141
次回開催予告	144
日本小児科医会セミナーの歴史	145
ノルディック・ウォーク(NW)無料体験会のご案内	146
実行委員	147
後援団体・協賛企業等一覧	148

会場へのご案内

【空のアクセス】

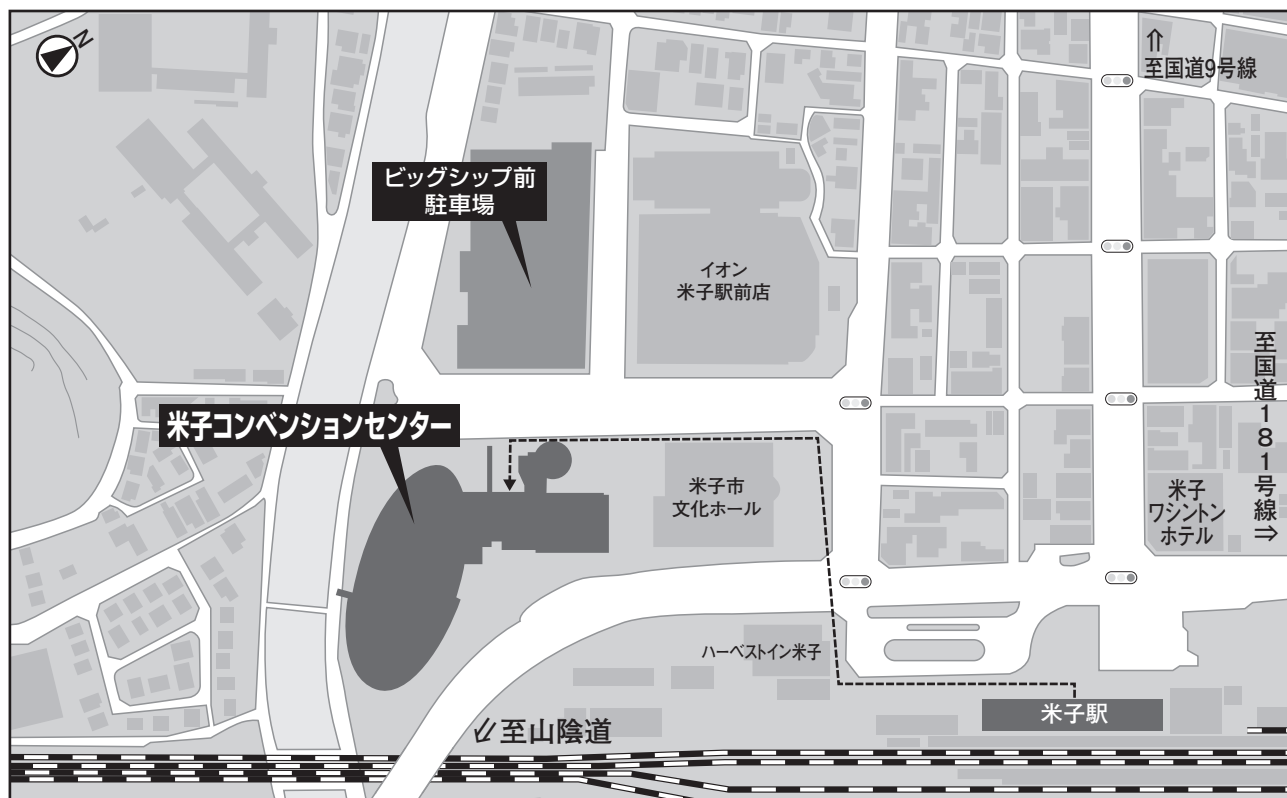
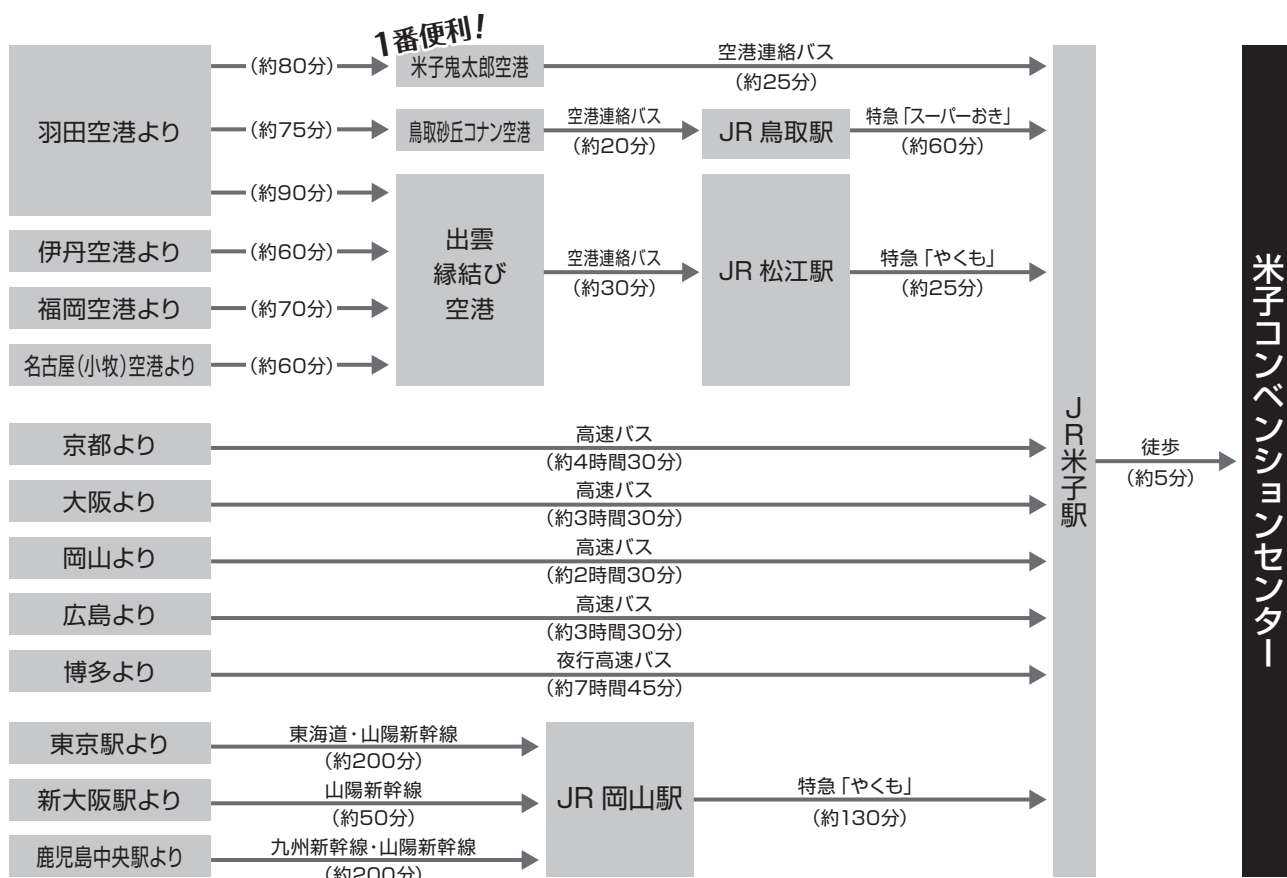


【陸のアクセス】



車を利用した場合	大阪	—[中国道→米子道→山陰道経由]—	米子中央 I.C	約3時間
	岡山	—[山陽道→岡山道→中国道→米子道→山陰道経由]—	米子中 I.C	約2時間
	広島	—[山陽道→広島道→中国道→松江道→山陰道経由]—	米子中 I.C	約2時間45分
	高知	—[高知→瀬戸中央→岡山→中国→米子→山陰道経由]—	米子中 I.C	約3時間30分

フォーラム会場周辺のご案内

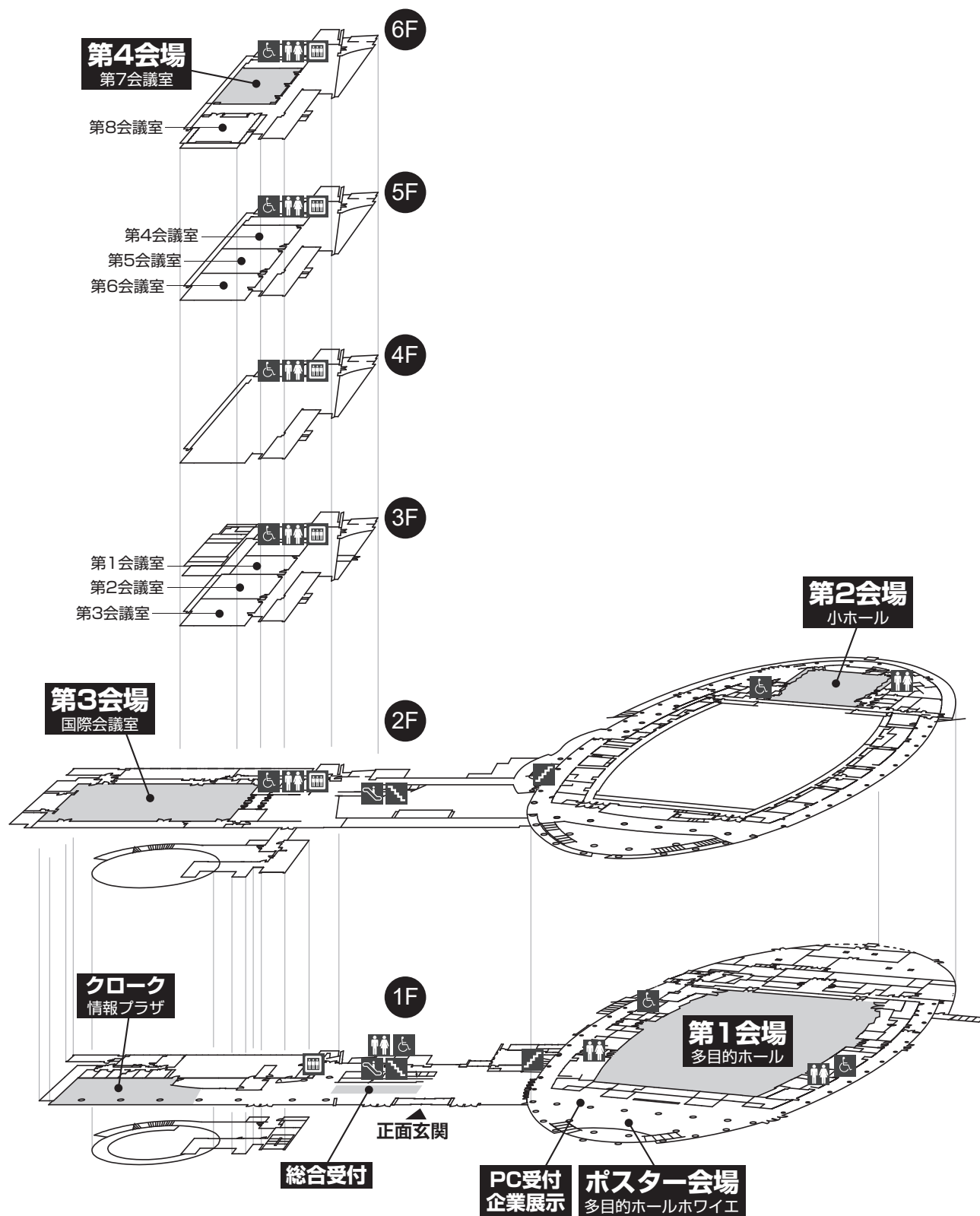


駐車場のご案内

ビッグシップ前駐車場(米子駅前簡易駐車場)に駐車された方は駐車券をご持参ください。会場内に設置いたします割引認証機にお通しいただきますと、開催時間内は駐車料金が無料になります。

※その他の近隣有料駐車場の割引は適用されません。

フォーラム会場のご案内



1日目 2016年6月11日土

	第1会場 1F 多目的ホール	第2会場 2F 小ホール	第3会場 2F 国際会議室	第4会場 6F 第7会議室	ポスター会場 1F 多目的ホールホワイエ	1F 多目的ホール ホワイエ
9:00			9:15～11:45		9:00 ～ 10:30 ポスター貼付	9:00 ～ 18:00
10:00	9:45～11:45 シンポジウム1 プライマリーケア としての重症心身 障がい児医療 ～できることから始めよう、 小児在宅医療の“ABC”～ 演者：玉崎 章子 春本 常雄 鈴木 由夫 絹川 美鈴		社員総会			企 業 展 示
11:00					10:30 ～ 15:00 ポ ス タ ー 展 示	
12:00		12:00～13:00 教育セミナー1 共催：ヤンセンファーマ(株)	12:00～13:00 教育セミナー2 共催：ファイザー(株)	12:00～13:00 教育セミナー3 共催：サノフィ(株) 第一三共(株)		
13:00	13:15～開会式 13:20～14:00 会長講演 演者：松平 隆光	13:20～15:20 シンポジウム2 子どもの足もと からの健康づくり ～子どもの足と靴を みよう～ 演者：内田 俊彦 吉村 真由美 西田 直美 岸田 寛昭				
14:00	14:00～14:50 特別招待講演 演者：白木 和夫					
15:00	15:00～15:50 教育講演1 演者：神崎 晋	15:30～16:20 教育講演2 演者：難波 栄二			15:00 ～ 16:30 ポ ス タ ー 発 表	
16:00						
17:00	16:30～18:30 市民公開講座 子育て王国鳥取 ～未来に向かって 行動しよう!～ 演者：平井 伸治 汐田 まどか 南前 素子 福田 美穂 太田 佳子	16:30～18:30 シンポジウム3 日本小児科医会乳幼児 学校保健委員会 自尊感情を育む ～乳幼児期の基盤形成 演者：近藤 卓 澤田 敬 渡辺 久子			16:30 ～ 18:30 ポ ス タ ー 展 示	
18:00						
19:00			19:00～21:00 懇 親 会			
20:00						
21:00						

2日目 2016年6月12日

	第1会場 1F 多目的ホール	第2会場 2F 小ホール	第3会場 2F 国際会議室	第4会場 6F 第7会議室	ポスター会場 1F 多目的ホールホワイエ	1F 多目的ホール ホワイエ
7:30						
8:00		7:45～8:45 モーニングセミナー 共催：アステラス製薬(株)				
9:00	9:00～9:50 教育講演 3 演者：花木 啓一	9:00～9:50 教育講演 4 救急委員会 演者：市川 光太郎			9:00 ～ 13:30	9:00 ～ 15:30
10:00	10:00～12:00 特別企画 小児の医療、保健、 福祉の未来像 ～わが国の小児科医、 これから希求されるもの、 行動するもの～ 演者：五十嵐 隆 岡田 知雄 自見 はな子				ポ ス タ ー 展 示	企 業 展 示
11:00						
12:00						
13:00	12:15～13:15 教育セミナー 4 共催：ジャパンワクチン(株) 第一三共(株)	12:15～13:15 教育セミナー 5 共催：バイオガイアジャパン(株)	12:15～13:15 教育セミナー 6 共催：MSD(株)	12:15～13:15 教育セミナー 7 共催：ジェンザイム・ ジャパン(株)		
14:00	13:30～15:30 シンポジウム 4 公衆衛生委員会 麻疹排除に至った 経過と今後の課題 ～麻疹ゼロは通過点 であり、今後の体制 維持に努力を～ 演者：峯 真人 具志 一男 宮崎 千明	13:30～15:30 シンポジウム 5 発達障害の初歩か ら…概念の変遷と 研究・療育の発展 ～一般小児科医が、 これから行動する 方向は？～ 演者：小枝 達也 大野 耕策 平谷 美智夫 金原 洋治			13:30 ～14:30 ポ ス タ ー 撤 去	
15:00	15:30～ 閉会式					
16:00						

プログラム

第1日目 6月11日(土)

受付開始 9:00～

社員総会 9:15～11:45

第3会場(2F 国際会議室)

シンポジウム1 9:45～11:45

第1会場(1F 多目的ホール)

座長：前垣 義弘(鳥取大学医学部 脳神経小児科 教授)

長田 郁夫(鳥取県小児科医会理事・小児在宅医療対策委員会委員長)

プライマリーケアとしての重症心身障がい児医療
～できることから始めよう、小児在宅医療の“ABC”～

S1-1 地域で重症心身障害児・者の診療に参加する医師・看護師の養成

玉崎 章子 鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科 講師

S1-2 小児在宅医療の経験、そしてその充実に向けて

春本 常雄 医療生協かわち野生活協同組合 東大阪生協病院 小児科
大阪小児科医会プライマリ・ケア部在宅小児医療委員会

S1-3 重症心身障がい児者の地域生活を児童デイから創る

鈴木 由夫 一般社団法人全国重症心身障がい児デイサービスネットワーク
特定非営利活動法人ふれ愛名古屋 理事長

S1-4 はじめて重症心身障がい児の訪問にかかわって ～悩みながら見えてきたもの、そして新たな挑戦をめざして～

絹川 美鈴 社会福祉法人愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター訪問看護ステーションめぐみ

教育セミナー1 12:00～13:00

第2会場(2F 小ホール)

座長：小枝 達也(国立成育医療研究センター こころの診療部 部長)

ES-1 小児 ADHD の早期発見と早期支援・治療の重要性 ～小児科医だからこそできること～

宮島 祐 東京家政大学子ども学部子ども支援学科教授
東京医科大学医学部小児科学分野 兼任教授

共催：ヤンセンファーマ株式会社

座長：及川 馨(島根県小児科医会 会長、日本小児科医会理事)
中山 義雄(日本小児科医会 公衆衛生委員会委員長)

公衆衛生委員会主催

麻疹排除に至った経過と今後の課題

～麻疹ゼロは通過点であり、今後の体制維持に努力を～

S4-1 麻疹撲滅に向けて日本小児科医会重症麻疹患者全国調査の果たした役割

峯 真人 日本小児科医会 公衆衛生委員会 担当事務

S4-2 先天性風疹症候群(CRS)の風化と沖縄の麻疹対策

具志 一男 ぐしこどもクリニック

S4-3 予防接種後副反応の考え方と対応

宮崎 千明 福岡市立心身障がい福祉センター センター長

座長：前垣 義弘(鳥取大学医学部 脳神経小児科 教授)
小枝 達也(国立成育医療研究センター こころの診療部 部長)

発達障害の初歩から…概念の変遷と研究・療育の発展

～一般小児科医が、これから行動する方向は？～

S5-1 発達障害の歴史と概念の変遷

小枝 達也 国立成育医療研究センター こころの診療部 部長

S5-2 発達障害の原因と治療の進歩

大野 耕策 独立行政法人労働者健康安全機構 山陰労災病院 院長

S5-3 発達障害医療・療育ネットワークの中で小児科医の果たす役割： 心身相関の中で子供を理解できる専門家として

平谷 美智夫 医療法人 平谷こども発達クリニック

S5-4 地域とつながり地域を耕す ―小児科医にできること―

金原 洋治 医療法人社団 かねはら小児科

会 長 講 演



座長：笠木 正明（鳥取県小児科医会会長）

成育基本法と共に歩んだ20年

松平 隆光

公益社団法人 日本小児科医会 会長

特別招待講演

座長：神崎 晋（鳥取大学医学部 周産期・小児医学分野 教授）

子どもから始まる肝がん予防 —B 型肝炎母子感染防止事業から HB ワクチン定期接種へ—

白木 和夫

鳥取大学 名誉教授

特 別 企 画

座長：桑原 正彦（広島県小児科医会会長・中四小児科連絡協議会代表幹事・日本小児科医連委員長）
田原 卓浩（山口県小児科医会会長）

小児の医療、保健、福祉の未来像 ～わが国の小児科医、これから希求されるもの、行動するもの～

1 わが国の小児保健・医療の課題

五十嵐 隆 国立成育医療研究センター 理事長

2 小児保健のこれから = 健やかな子どもの成長のために =

岡田 知雄 公益社団法人日本小児保健協会 会長 / 神奈川工科大学栄養生命科学科 特任教授

3 小児科医から見た人口減少の取り組みから ～子どもと小児科医の未来に向かって～

自見 はな子 虎の門病院小児科（非常勤）、日本医師会男女共同参画委員、
東海大学医学部医学科客員准教授

教育講演

教育講演 1

座長：花木 啓一（鳥取大学医学部 保健学科 教授）

『点と線』：成長曲線と成長障害（低身長）

神崎 晋 鳥取大学 医学部 周産期・小児医学分野 教授

教育講演 2

座長：前垣 義弘（鳥取大学医学部 脳神経小児科 教授）

難病の遺伝子診断と治療

難波 栄二 鳥取大学生命機能研究支援センター センター長・教授
鳥取大学医学部附属病院 次世代高度医療推進センター ゲノム医療部門長
鳥取大学医学部附属病院 遺伝子診療科 科長

教育講演 3

座長：村上 潤（鳥取大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター 副センター長）

小児肥満とメタボリックシンドローム ～個人と社会の生活習慣～

花木 啓一 鳥取大学医学部保健学科 教授

教育講演 4

座長：兵藤 純夫（地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立舟入市民病院 副院長、小児救急医療委員会）

小児救急医療委員会主催

子どもの事故外傷の特徴 ～事故予防指導は小児科医がすべき！～

市川 光太郎 北九州市立八幡病院小児救急センター

シンポジウムⅠ

座長：前垣 義弘（鳥取大学医学部 脳神経小児科 教授）
長田 郁夫（鳥取県小児科医会理事・小児在宅医療対策委員会委員長）

プライマリーケアとしての重症心身障がい児医療 ～できることから始めよう、小児在宅医療の“ABC”～

S1-1 地域で重症心身障害児・者の診療に参加する医師・看護師の養成

玉崎 章子 鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科 講師

S1-2 小児在宅医療の経験、そしてその充実に向けて

春本 常雄 医療生協かわち野生活協同組合 東大阪生協病院 小児科
大阪小児科医会プライマリ・ケア部会在宅小児医療委員会

S1-3 重症心身障がい児者の地域生活を児童デイから創る

鈴木 由夫 一般社団法人全国重症心身障がい児デイサービスネットワーク
特定非営利活動法人ふれ愛名古屋 理事長

S1-4 はじめて重症心身障がい児の訪問にかかわって ～悩みながら見えてきたもの、そして新たな挑戦をめざして～

絹川 美鈴 社会福祉法人愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター訪問看護ステーションめぐみ

シンポジウム 2

座長：松田 隆（鳥取県中部小児科医会会長）

子どもの足もとの健康づくり ～子どもの足と靴をみよう～

S2-1 こどもの足の特徴と足の障害、靴の問題 ～整形外科的視点から～

内田 俊彦 NPO オーソティックスソサエティー 理事長

S2-2 小児科での靴教育の必要性 ～シューエデュケーション®を始めましょう～

吉村 真由美 早稲田大学 人間総合研究センター

S2-3 足もとの健康づくりの実践 ～多様な遊びや靴との向き合いを通して、土踏まず形成を目指す取り組み～

西田 直美 学校法人倉吉幼稚園 理事長

S2-4 足もとの健康づくりの実践～地域での実践活動～

岸田 寛昭 NPO 法人未来 理事長

シンポジウム3

座長：新津 直樹（新津小児科）
伊藤 晴通（生和堂医院）

日本小児科医会乳幼児学校保健委員会主催
自尊感情を育む ～乳幼児期の基盤形成

S3-1 乳幼児期から育む自尊感情 ～基本的自尊感情と社会的自尊感情～

近藤 卓 山陽学園大学総合人間学部長・教授

S3-2 甘えと間主観性（心の奥底の響き合い）
＝間主観的子育て、甘え子育てと自尊感情＝

澤田 敬 認定NPO法人 カンガルーの会 理事長

S3-3 幼年期の甘えと遊び：今、日本の子どもたちに必要なこと

渡辺 久子 Life Development Center 渡邊醫院

シンポジウム4

座長：及川 馨（島根県小児科医会 会長、日本小児科医会理事）
中山 義雄（日本小児科医会 公衆衛生委員会委員長）

公衆衛生委員会主催

麻疹排除に至った経過と今後の課題 ～麻疹ゼロは通過点であり、今後の体制維持に努力を～

S4-1 麻疹撲滅に向けて日本小児科医会重症麻疹患者全国調査の果たした役割

峯 真人 日本小児科医会 公衆衛生委員会 担当理事

S4-2 先天性風疹症候群（CRS）の風化と沖縄の麻疹対策

具志 一男 ぐしこどもクリニック

S4-3 予防接種後副反応の考え方と対応

宮崎 千明 福岡市立心身障がい福祉センター センター長

シンポジウム5



座長：前垣 義弘（鳥取大学医学部 脳神経小児科 教授）

小枝 達也（国立成育医療研究センター こころの診療部 部長）

発達障害の初歩から…概念の変遷と研究・療育の発展 ～一般小児科医が、これから行動する方向は？～

S5-1 発達障害の歴史と概念の変遷

小枝 達也 国立成育医療研究センター こころの診療部 部長

S5-2 発達障害の原因と治療の進歩

大野 耕策 独立行政法人労働者健康安全機構 山陰労災病院 院長

S5-3 発達障害医療・療育ネットワークの中で小児科医の果たす役割： 心身相関の中で子供を理解できる専門家として

平谷 美智夫 医療法人 平谷こども発達クリニック

S5-4 地域とつながり地域を耕す ―小児科医にできること―

金原 洋治 医療法人社団 かねはら小児科

市民公開講座

座長：齊下 美智子（米子市福祉保健部 部長）
汐田 まどか（鳥取県立総合療育センター 院長）

子育て王国鳥取 ～未来に向かって行動しよう！～

- 1 基調講演 子育て王国、鳥取のこれから
平井 伸治 鳥取県知事
- 2 発達の気になる子どもを地域で支援するシステム作り
～気づきから療育まで
汐田 まどか 鳥取県立総合療育センター 院長
- 3 ペレントメンター事業について ～発達障がいをもつ子の親に寄り添う～
南前 素子 鳥取県自閉症協会 ペARENTメンター
- 4 『食物アレルギー児を持つ親の会ナチュラル』の取り組みについて
福田 美穂 食物アレルギー児を持つ親の会ナチュラル
- 5 あたりまえをあたりまえに ～共に育む～
太田 佳子 株式会社山陰放送 管理総局専門局長兼人事労政部長

ポスターセッション

ポスターセッション1

座長：岡空 輝夫（岡空小児科医院）

1-01～1-07

ポスターセッション2

座長：深澤 満（ふかざわ小児科）

2-08～2-13

ポスターセッション3

座長：八木 信一（富山県小児科医会）

3-14～3-19

ポスターセッション4

座長：松下 亨（日本小児科医会 乳幼児学校保健委員会）

4-20～4-25

1-01

第一線小児科クリニックから見た RSV 感染症

○岡空 輝夫

岡空小児科医院

Respiratory syncytial virus (以下 RSV) は年齢を問わず生涯にわたり顕性感染を起こすが、特に乳幼児期では非常に重要な病原体であり、母体からの移行抗体が存在するにもかかわらず、生後数週から数ヶ月の期間にもっとも重症な症状を引き起こす。さらに低出生体重児あるいは心肺系に基礎疾患や免疫不全のある場合には重症化のリスクがより高い。

2015 年秋以降全国的に RSV 感染症が流行したが、山陰地区でも同様であり、当院において RSV 感染症と診断した症例についてまとめてみる。

なお、RSV 感染症としての症状(発熱、喘鳴を伴う咳、鼻汁など)があり、下記のいずれかを満たす場合を RSV 感染症と診断した。

(1) RSV 感染症が家庭内あるいは通園中の保育園・幼稚園のクラスで流行(認定 RSV 感染症)

(2) RSV 迅速検査陽性(確定 RSV 感染症)

2015 年 9 月下旬～12 月末に 87 例を RSV 感染症と診断した。0 歳児 9 例、1 歳 33 例、2 歳 26 例、3 歳 15 例、4 歳以上 4 例であり、1～2 歳児が中心であった。また男女比は約 1.56 倍、男子に多かった。6 例が入院加療となったが、3 例は 0 歳児であり、周知のことではあるが、乳児 RSV 感染症は入院加療を考慮しつつ、慎重な経過観察が必要と考えられた。

1-02

マクロライド耐性肺炎マイコプラズマの 流行は年・地域・施設によって異なる

○板垣 勉¹⁾、鈴木 裕²⁾、瀬戸 順次²⁾、
矢作 一枝²⁾、水田 克巳²⁾、松寄 葉子³⁾

1) 山辺こどもクリニック

2) 山形県衛生研究所微生物部

3) 山形大学医学部感染症学講座

山辺こどもクリニックでは山形県衛生研究所微生物部の協力で肺炎マイコプラズマの調査を行っている。2009 年から 2011 年までの肺炎マイコプラズマの分離結果とその遺伝子変異率の調査から地域によって遺伝子変異率が異なることを指摘してきた。また山辺町で 2009 年に大きな流行を示した A2063T 遺伝子変異株はそれ以降検出されなくなった。2012 年山辺町の 2 箇所の施設で同時期に流行したが、地域流行がおこるまでに 3 か月を要し、最初に施設で発症した児の遺伝子変異の有無により施設でみられた肺炎マイコプラズマの遺伝子変異率は大きく異なった。また地域流行時になると遺伝子変異率は高くなっていた(岡空も流行初期と終焉期のマクロライド反応性が異なることを指摘している)。その後 2014 年 1 月から 2015 年 9 月までに分離された 4 例の肺炎マイコプラズマはすべて遺伝子変異を認めなかった。成田が小児科臨床 2015 年 12 月号に投稿しているが 2012 年に大流行したマクロライド耐性肺炎マイコプラズマはほぼ落ち着き、今後の肺炎マイコプラズマは感受性株による発症と考えると治療を進めるべきである。安易なトスフロキサシン投与は慎むべきである。

4-25

インドでのポリオ撲滅および 撲滅維持への取り組み

○関場 慶博

日本小児科医会国際委員会

せきばクリニック

GPEI 主導の世界ポリオ撲滅プログラムは、1988 年より開始され2000 年での発症0を目指していた。しか大幅にプログラムは遅れ、今年もすでにパキスタンおよびアフガニスタンで発症がある。演者は2001 年より、当時ポリオ流行国だったインドを毎年訪れ、ポリオワクチン投与活動に携わるとともに、インドでのポリオ撲滅への取り組みを見守ってきた。世界でポリオが最後まで残る国と言われたインドで、2011 年1 月の最後の症例以降、ポリオ発生は無く、2014 年にポリオ撲滅国と認定された。インドにおけるポリオ撲滅への取り組みはどのようなものだったのか？そして、現在、ポリオ撲滅状態を維持するために、どのような努力がなされているかを紹介し、合わせて世界ポリオ撲滅プログラムの今後の展開に関しても言及したい。

教育セミナー

ES-1 座長：小枝 達也（国立成育医療研究センター
こころの診療部 部長）

小児 ADHD の早期発見と早期支援・治療の
重要性 ～小児科医だからこそできること～

宮島 祐 東京家政大学子ども学部子ども支援学科教授
東京医科大学医学部小児科学分野 兼任教授

ES-2 座長：尾内 一信（川崎医科大学 小児科学講座 主任教授）

乳幼児の上咽頭から検出された肺炎球菌の
血清型疫学の変化から考える肺炎球菌結合型
ワクチンの効果と課題

成相 昭吉 島根県立中央病院 小児科 部長（前横浜南共済病院
小児科部長・横浜市大小児科臨床教授）

ES-3 座長：太田 文夫（医療法人 社団千廣会 おおた小児科）

日本への Hib ワクチン導入から学んだこと
その経験を生かすには？

石和田 稔彦 千葉大学真菌医学研究センター
感染症制御分野 准教授

ES-4 座長：及川 馨（医療法人 及川医院）

押さえておきたい2か月齢からのワクチン接種
啓発のポイント ～更なる普及と課題を考える～

成相 昭吉 島根県立中央病院 小児科 部長（前横浜南共済病院
小児科部長・横浜市大小児科臨床教授）

ES-5 座長：服部 益治（兵庫医科大学小児科学 教授）

腸内細菌叢と Infant Colic の関係について
On the relationship between gut microbiota and
infantile colic

Hania Szajewska M.D. Department of Pediatrics,
The Medical University of Warsaw

ES-6 座長：峯 真人（医療法人自然堂 峯小児科）

定期接種が開始されるワクチン、目指すワクチン

1 B 型肝炎ワクチン定期接種化が
なぜ必要なのか？

村上 潤 鳥取大学医学部附属病院
総合周産期母子医療センター 副センター長

2 ロタウイルスワクチン ～有効性と安全性

中野 貴司 川崎医科大学 小児科学 教授

ES-7 座長：前垣 義弘（鳥取大学医学部 脳神経小児科 教授）

日常診療で遭遇するライソゾーム病
—その診断と治療—

成田 綾 鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科 助教

モーニングセミナー



MS-1

座長：崎山 弘（崎山小児科）

ゲゲゲのワクチン：劇的効果、芸術的作用機序、元気の源泉

森内 浩幸 長崎大学大学院 医歯学総合研究科 医療科学専攻
発展医療科学講座 小児科学 教授

第27回日本小児科医会総会フォーラム プログラム・抄録集

会 頭：笠木 正明

フォーラム事務局：

実行委員長：岡空 輝夫（岡空小児科医院）
〒684-0003 鳥取県境港市浜ノ町127
TEL：0859-47-1234 FAX：0859-44-2001
MAIL：jpa2016@act-p.net

フォーラム運営事務局：

アクティブ・プロ
〒683-0851 鳥取県米子市夜見町1895-3
TEL：0859-48-0700 FAX：0859-48-0600
MAIL：jpa2016_office@act-p.net

出 版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<http://www.secand.jp/>